

厚生労働科学研究

(子ども家庭総合研究事業)

保育所、学校等関係機関における 虐待対応のあり方に関する調査研究

平成16年度研究報告書

平成17年3月

主任研究者 才 村 純

目 次

研究報告書	1
-------------	---

資 料	17
-----------	----

研究報告書

保育所、学校等関係機関における虐待対応のあり方に関する調査研究

主任研究者 才村 純(日本子ども家庭総合研究所ソーシャルワーク研究担当部長)

研究要旨

本研究の目的は、全国の保育所、幼稚園、小学校、中学校、放課後児童健全育成事業を実施する児童館の職員を対象に、虐待対応の実態や対応についての役割意識、問題意識等に関する横断的な調査を行い、各機関間の比較検証を行うことにより、対応や意識、連携上の構造的課題点、課題を明らかにし、効果的な対応に資するための各機関向けのガイドラインを策定するものである。

本研究は、平成 16 年度から平成 18 年度までの 3 ヶ年計画で実施するが、初年度の平成 16 年度は、平成 17 年度に実施予定の本格調査に備え、各施設向けの調査票案を作成し、予備調査を行い、アンケートにより調査や調査票のあり方について意見を聴取した。また、業者委託により、データ入力及び解析のためのプログラムを開発するとともに、予備調査で得られたデータについて入力、集計の試行を行った。

アンケートからは、調査結果を知らせてほしい、研究成果を具体的な施策に反映させてほしいといった前向きな意見が多く寄せられ、調査に対する理解、関心は高いものと思われた。しかし、調査項目数については一部の調査票を除き、適切とする意見が多くを占めたものの、調査項目や選択肢が自分の所属する施設の組織や対応実態に合致していないため回答しづらいといった指摘をはじめ、調査項目について多くの具体的な意見が出された。

平成 17 年度には、予備調査で得られた意見を踏まえ、調査票の調整を行い、文部科学省が予定している教育委員会等を対象とした調査とも連動させる形で全国調査(5%の無作為抽出を行う予定)を実施し、平成 18 年度には各施設の組織構造、対応構造、職員の意識構造等を踏まえながら、各施設向けの対応ガイドラインを策定する予定である。

<研究協力者>

安部 計彦(北九州市立障害福祉センター)
天野 義仁(大阪府泉大津市健康福祉部児童福祉課)
有村 大士(日本子ども家庭総合研究所)
今泉 柔剛(文部科学省初等中等教育局児童生徒課)
栗原 直樹(埼玉県所沢児童相談所)
佐藤 拓代(大阪府東大阪市保健所)
澁谷 昌史(日本子ども家庭総合研究所)
但馬 直子(厚生労働省雇用均等・児童家庭局総務課虐待防止対策室)
野澤 秀之(財団法人児童健全育成推進財団)
玉井 邦夫(山梨大学)
津崎 哲郎(花園大学)
濱涯 廣子(安井総合法律事務所)
山下 英三郎(日本社会事業大学)

A. 研究の目的

児童虐待の防止等に関する法律は、関係機関の連携の強化をはじめ、学校の教職員、児童福祉施設の職員やこれら職員が所属する機関等に対し虐待の早期発見の努力義務を課している。また、国及び地方公共団体に対して、学校の教職員、児童福祉施設の職員等の人材確保、資質の向上、これらの職員が虐待防止に果たすべき役割等に関する調査研究と検証を求めている。さらに、平成 16 年の児童福祉法改正では、関係機関による連携基盤である児童虐待防止ネットワークが「要保護児童対策地域協議会」として法定化されるなど、学校や児童福祉施設における取組みの強化と機関間の連携が強く要請されている。

しかし、先行研究によれば、虐待の確証がつかめないと理由から学校や保育所が通告を躊躇したり、通告した後の連携も円滑に図られていないといえない実態がある。

このため、本研究では、全国の保育所、幼稚園、小学校、中学校、放課後児童健全育成事業を実施する児童館の職員を対象に、虐待対応の実態や対応についての役割意識、問題意識等に関する横断的な調査を行い、各機関間の比較検証を行うことにより、対応や意識、連携上の構造的課題点、課題を明らかにし、効果的な対応に資するための各機関向けのガイドラインを策定するものである。

B. 研究の方法

本調査研究は、3 カ年計画であり、本年度は 1 年目である。

当初の計画では、平成 16 年度において小学校、中学校を対象に調査を行うこととしていたが、①調査対象となる施設数や調査内容が膨大であり、調査の精度を高めるには全施設種別を対象に予備調査を行い、調査手法や調査票について回答協力者の意見を聴取すべきであるとの指摘が研究会においてなされたこと、②文部科学省が平成 17 年度に全国の都道府県、市町村教育委員会を対象とした調査を行うことになり、これとの調整を図りながら一体的に調査を実施した方がより精度の高い効果的な知見が得られると判断したことから、平成 16 年度は各施設ごとの調査票案を作成し、全施設種別について協力が得られる施設を対象に予備調査を実施し、集計・分析を行う

とともに、調査計画や調査内容等について意見を聴取した。

調査票案の作成に当たっては、虐待対応の実態把握のみならず各職階ごとの意識把握及び適切な対応を阻害する構造的要因にまで踏み込んだ把握が可能となるよう心がけた。さらに、当初の研究計画ではビネット調査は予定していなかったが、関係者が虐待をどのように認識しているかを把握することが効果的なガイドラインを策定する上で不可欠と考えられたことから、改めて実施することとした。

これら調査票の作成と併せてデータの入力・集計プログラムを開発し(業者委託)、予備調査データについてテストランニングを行った。

平成 17 年度には、全国の小・中学校、幼稚園、保育所、放課後児童健全育成事業を実施している児童館について、5%の無作為抽出を行い、質問紙調査により、虐待への対応実態を把握するとともに、当該施設における各職種、職階を対象に、虐待対応に関する役割意識、問題意識を把握する予定である。さらに、これらの者を対象としてビネット調査を実施し、虐待に関する認識実態を把握することとした。

平成 18 年度には、調査データについて虐待対応や連携の阻害要因を組織構造、意識構造の観点から施設横断的に比較分析し、これを踏まえて各施設種別向けのガイドラインを策定するが、このことにより、単なる「あるべき論」ではなく、各施設の虐待対応構造や関係職員の意識の実態を踏まえた実効性あるガイドラインの策定が可能となると考えている。

C. 結果及び考察

(1) 調査票の作成

保育所、幼稚園、小学校、中学校、放課後児童健全育成事業を実施する児童館について、それぞれ調査票 3 種類ずつ、計 15 種類及び全施設共通のビネット調査票を作成した。すなわち、各施設ごとに①調査票Ⅰ「施設の属性および虐待事例への遭遇の有無」、②調査票Ⅱ「事例調査」、③調査票Ⅲ「意識調査」、④調査票Ⅳ「ビネット調査」を作成した。

①調査票Ⅰ「施設の属性および虐待事例への遭遇の有無」は、協力を依頼した全施設を対象に、施設の属性及び過去 3 年半(平成 14

年度～平成 17 年 1 月末)における虐待事例への遭遇の有無を尋ねるものである。

②調査票Ⅱ「事例調査」は、調査票Ⅰにおいて「虐待事例への遭遇あり」と回答のあった施設に対し、当該事例の概要、当該事例への対応状況等を尋ねるものである。

③調査票Ⅲ「意識調査」は、遭遇事例の有無とは関わりなく、協力を依頼した全施設の各職種、職階(例えば、小学校では校長、教頭、生徒指導担当教諭、学年主任、学年担任、養護教諭、スクールカウンセラー)各 1 名ずつに、虐待問題に対する関心や理解の程度、虐待事例に遭遇した場合の対応についての考え方、機関連携のあり方に関する考え方などに関する意識を問うものである。

④調査票Ⅳ「ビネット調査」は、ショートストーリーに対する回答者の意識や認識を問うもので、例えば、「親がパチンコをしている間、乳幼児を車に残しておく」といった事態について、当該行為がどの程度虐待として認識されているのかその程度を問うものである。

高橋重宏らは、平成 7 年度、全国の児童相談所の児童福祉司を対象にビネット調査を実施しているが、これとの比較を行うため、ビネット調査項目は、高橋らの調査項目と全く同一のものを採用した。

調査票Ⅳの質問項目は全施設共通であるが、各施設間の横断的比較を行うため、他の調査票についても可能な限り共通な質問項目を設定した。

(2) 予備調査の実施

より精度の高い調査票とするため、上記の調査票を用いて予備調査を実施し、回答者に調査研究そのもののあり方をはじめ、調査票や調査項目のあり方等についてアンケート調査票により意見を聴取した。予備調査に協力をいただいた施設は、研究員が講師を勤めた研修の受講者が所属する施設、施設団体から紹介のあった施設、研究員らが研究等を通じて関わっている者から紹介のあった施設などである。

表1は調査票Ⅰに回答のあった施設数及びその内訳、表2は各施設別の該当事例数、表3は調査票Ⅲの回答者数、表4は調査票Ⅲへの回答者の属性である。児童館 15 ヶ所、中学校 13 ヶ所、小学校 12 ヶ所、保育所 6 ヶ所、幼稚園 3 ヶ所計 49 ヶ所から回答を得た。該当

事例(虐待事例)は 49 件、65 人であり、全児童数の 0.8%であった。調査票Ⅲへの回答者数は合計 224 人であり、内訳は小学校 102 人、中学校 48 人、保育所 41 人、児童館 20 人、幼稚園 13 人である。回答者数が施設数に対応しないのは、各施設間で回答すべき職種の数に違いのあることが大きな要因と考えられる。

(3) 予備調査の結果

入力・解析プログラムが順当に稼動するかどうかのテストも兼ねて、各調査票の集計を行ったが、①予備調査への協力者の抽出方法が恣意的であること、②データ数が少ないことなどから、今回の調査の結果が母集団の性質を代表しているとはいえないため、結果の掲載は差し控える。

(4) 調査のあり方及び調査項目等に対する自由意見

【調査票Ⅰ】

① 自由意見欄への回答者数

調査票Ⅰ(施設の属性及び虐待事例遭遇の有無)の自由意見欄への回答者数は、児童館が最も多く 7 人(41.2%)、次いで小学校 4 人(23.5%)、保育所 2 人(11.8%)、幼稚園 2 人(11.8%)、中学校 2 人(11.8%)となっている(表 5)。

② 質問数に関する意見

調査票Ⅰの質問数に関する意見では、「適当な数である」10 人(58.8%)、「多すぎる」6 人(35.3%)となっており、質問数としては概ね妥当との評価がなされている(表 6)。

③ 質問内容に関する意見

調査票Ⅰの質問内容に関する意見では、「適切である」10 人(83.3%)、「修正すべきである」2 人(16.7%)となっており、質問内容も概ね妥当との評価がなされている(表 7)。

修正すべき具体的な意見としては、項目が多すぎるのもっと絞り込んだ方が答え易い、児童館では、一般利用者と放課後児童クラブの会員とが混在しているため、児童数の記載方法が分かりづらかったという意見があった。本調査研究では、放課後児童健全育成事業(放課後児童クラブ)に参加している子どもを対象としているが、調査票Ⅰの自由意見欄に

は、放課後児童クラブ以外の自由来館者の虐待事例についても把握すべきとの意見が出されており、自由来館者についても把握すべきかどうか検討する必要がある。もし、放課後児童クラブの参加児童に絞り込むのであれば、一般来館者は対象外であることをもっと明確に示す必要があろう。

④ 調査票Ⅰ全体に関する意見の自由記述者数

調査票Ⅰ全体に関する意見自由の記述者数は、記入ありが4人(23.5%)、記入なしが13人(76.5%)である(表8)。

具体的な内容としては、児童館における自由来館者についても調査すべきであると意見が4件あった。

⑤ 調査票Ⅰの回答者の名前と連絡先の記入状況

予備調査では、アンケート調査で出された意見に対し電話等で詳細を尋ねる場合があるので、支障がなければ回答者の氏名や連絡先を記述するよう求めたが、調査票Ⅰの回答者で氏名、連絡先の記入状況は、記入ありが12人(70.6%)、記入なしが5人(29.4%)であった(表9)。

【調査票Ⅱ】

① 自由意見欄への回答者数

調査票Ⅱ(事例調査)の自由意見欄への回答者数は、児童館が最も多く11人(36.7%)、次いで中学校9人(30.0%)、保育所6人(20.0%)、小学校3人(10.0%)、幼稚園1人(3.3%)の順となっている(表10)。

② 質問数に関する意見

調査票Ⅱの質問数に関する意見では、「適当な数である」20人(80.0%)、「多すぎる」3人(12.0%)となっており、質問数としては概ね妥当との評価がなされている(表11)。

③ 質問内容に関する意見

調査票Ⅱの質問内容に関する意見では、「適切である」9人(50.0%)、「修正すべきである」8人(44.4%)とほぼ同数となっている(表12)。

「修正すべきである」とする具体的な意見では、本調査は学校を主体としているため回答し

づらかったとの意見が学校以外の施設から複数出されている。これは問7において「校内」「教職員」、問8において「教職員」問9・1・③において「担任」、問9・1・⑦において「教育委員会」という用語を用いてしまったことによるものと考えられる。本調査に当っては用語を精査する必要がある。

また、小学校からは、問5の選択肢から「担任」がないとの指摘が2件あった。本調査では追加する必要がある。

問8の選択肢にネットワーク・ミーティングを加えてよいのではないかと指摘が中学校からなされているが、検討すべきであろう。

問8の選択肢に「担当児童厚生員」を入れているが、担当が決まっていない場合もあるとの指摘があった。検討する必要がある。

また、児童館からは、問7や問8などは学校のような体制がないため、答えにくいとの指摘がなされている。本調査に当っては、児童館関係者からの意見を十分踏まえる必要があろう。

④ 調査票Ⅱ全体に関する意見の自由記述者数

調査票Ⅱ全体に関する意見自由の記述者数は、記入ありが9人(30.0%)、記入なしが21人(70.0%)である(表13)。

具体的な内容としては、虐待事例を扱ったことがないのでわからないことが多いが、今後研修等で勉強していきたいという意見をはじめ、虐待かどうかを判断することに苦慮するという意見、虐待とその前段階との境にあるケースへの判断の困難さを訴える意見などが出された。本調査が対象とする虐待行為について、より明確な定義づけを行う必要があろう。

また、児童館からは、児童館の組織、体制、実態とかけ離れた設問が多く、回答に苦慮したとの意見が出されている。③で述べたとおり、本調査に当っては、児童館関係者からの意見を十分踏まえる必要があろう。

⑤ 調査票Ⅱの回答者の名前と連絡先の記入状況

調査票Ⅱの回答者で氏名、連絡先の記入状況は、記入ありが7人(23.3%)、記入なしが23人(76.7%)であった(表14)。

【調査票Ⅲ】

① 自由意見欄への回答者数

調査票Ⅲ(意識調査)の自由意見欄への回答者数は、保育所が最も多く 47 人(28.7%)、次いで小学校 43 人(26.2%)、中学校 34 人(20.7%)、児童館 25 人(15.2%)、幼稚園 15 人(9.1%)の順となっている(表 15)。

② 質問数に関する意見

調査票Ⅲの質問数に関する意見では、「適当な数である」73 人(46.8%)、「多すぎる」58 人(37.2%)となっており、「適当な数である」が若干上回っているとはいえ半数に満たない(表 16)。質問数を可能な限り減らすべく調査項目のあり方を検討する必要がある。

③ 質問内容に関する意見

調査票Ⅲの質問内容に関する意見では、「適切である」77 人(61.6%)が最も多く、次いで「修正すべきである」26 人(20.8%)、「追加すべきである」2 人(1.6%)、「削除すべきである」2 人(1.6%)となっている(表 17)。

具体的な意見では、内容が専門的すぎてわからない、質問内容の意味がよくわからないという意見が 7 件あった。特に、ネットワークの定義が曖昧とする意見も 2 件出された。設問文を可能な限り平易なものとなるよう全体的な見直しを図るとともに、ネットワークについてはよりわかりやすい定義を行う必要がある。

また、問 14 の選択肢の内容が適切でない、問 14 の質問文は『重要』ではなく『あたっている(該当する)』とすべき」というような具体的な意見も出されている。また、児童館からは、問 14 の設問文における「学校」、問 16、問 17 の選択肢における「学校」は児童館にはあてはまらないとの指摘があった。これらの指摘はもっともであり、本調査に当ってはこれらの意見を踏まえ修正する必要がある。

④ 調査票Ⅲ全体に関する意見の自由記述者数

調査票Ⅲ全体に関する意見自由の記述者数は、記入ありが 37 人(22.6%)、記入なしが 127 人(77.4%)である(表 18)。

具体的な内容としては、大事な調査である、自分の考えを振り返るいい機会になった、今回の予備調査を契機に研修等でもっと勉強したい、調査結果を知らせてほしい、施策に反省させてほしいという肯定的な意見が多数見ら

れた。一方、調査結果が何に活用されるのかわからない、調査目的を明示してほしいという意見も多く出された。本調査に際しては調査目的及び調査結果の活用方法等についてより明確に説明する必要がある。

1 件であるが、小規模校のため回答者の属性から回答者が特定される可能性があるとの指摘があったが、属性の把握方法について検討する必要がある。

個別事項に関する意見では、児童館向けの調査票Ⅲにおいて問 14 の設問文に「児童館」とすべきところを「学校」となっていることへの指摘をはじめ、設問が回答者の勤務する児童館の組織、体制、各種名称、実態と合わないため回答に苦慮したとの指摘があった。再検討が必要となろう。

⑤ 調査票Ⅲの回答者の名前と連絡先の記入状況

調査票Ⅲの回答者で氏名、連絡先の記入状況は、記入ありが 29 人(17.7%)、記入なしが 135 人(82.3%)であった(表 19)。

【調査票Ⅳ】

① 自由意見欄への回答者数

調査票Ⅳ(ビネット調査)の自由意見欄への回答者数は、小学校が最も多く 47 人(40.5%)、次いで保育所 35 人(30.2%)、中学校 17 人(14.7%)、児童館 9 人(7.8%)、幼稚園 8 人(6.9%)の順となっている(表 20)。

② 質問数に関する意見

調査票Ⅳの質問数に関する意見では、「適当な数である」51 人(47.7%)、「多すぎる」43 人(40.2%)、「わからない」13 人(12.2%)で「少なすぎる」はなかった(表 21)。

③ 質問内容に関する意見

調査票Ⅳの質問内容に関する意見では、「修正すべきである」が 47 人(46.5%)と最も多く、次いで「適切である」23 人(22.8%)、「削除すべきである」20 人(19.8%)で、「追加すべきである」はなかった。「修正すべきである」「削除すべきである」が合わせて 66.3%を占めている(表 22)。

これは、20 と 22、21 と 23 がそれぞれ同一の質問であることを指摘する意見が圧倒的に多いことによるものと思われる。回答の信憑性

をチェックするために敢えて質問を重複させたのであるが、逆に調査そのものの信頼性に対する疑いを回答者に持たせかねないので、再検討を要する。

④ 調査票Ⅳ全体に関する意見の自由記述者数

調査票Ⅳ全体に関する意見自由の記述者数は、記入ありが 24 人(20.7%)、記入なしが 92 人(79.3%)である(表 23)。

具体的な内容としては、集計結果と考察を伝えてほしい、特に同一地区での情報は、指導のための貴重な資料となりうる、虐待とはそのようなものかと感じたといった肯定的な意見があった反面、何のための調査か、普通の感覚の人に対するアンケート調査としてふさわしくなく、このような調査はお断りしたいといった否定的な意見もあった。

特に、「普通に考えるとどう考えてもよくないことがほとんどである。相手は何らかの苦痛を感じるのが虐待の定義であると考えたらあまり意味のない調査かもしれない」といった虐待の定義や調査そのものの本質に関わるような問題提起もあった。先述した高橋らの調査では、同一の質問項目について、①虐待かどうか、②通告する必要があるかどうか、③どのような対応をすればよいかという 3 つの側面から尋ねているが、今回の予備調査では①しか取り上げなかった。どの側面について尋ねるかを含め、ビネット調査のあり方について再検討する必要があるだろう。

⑤ 調査票Ⅳの回答者の名前と連絡先の記入状況

調査票Ⅳの回答者で氏名、連絡先の記入状況は、記入ありが 25 人(21.6%)、記入なしが 91 人(78.4%)であった(表 24)。

おわりに

予備調査におけるアンケートからは、調査結果を知らせてほしい、研究成果を具体的な施策に反映させてほしいといった前向きな意見が多く寄せられ、調査に対する理解、関心は高いものと思われた。しかし、調査項目数については一部の調査票を除き、適切とする意見が多くを占めたものの、調査項目や選択肢が自分の所属する施設の組織や対応実態に合致していないため回答しづらいといった指摘をはじめ、調査項目について多くの具体的な意見が出された。平成 17 年度の全国調査に際しては、これらの意見を十分踏まえたい。

最後に、ご多忙な中、予備調査にご協力いただき、貴重なご意見を頂戴した回答者の方々、調査協力者のご紹介をいただいた関係者の方々には心からお礼を申し上げる次第である。

1) 高橋重宏他『子どもへの不適切な関わり(マルトリートメント)』のアセスメント規準とその社会的対応に関する研究(2)・新たなフレームワークの提示とビネット調査を中心に」、平成 7 年度日本総合愛育研究所紀要第 32 集、日本総合愛育研究所、1996

表1 調査票Ⅰの回答数

施設名		回答数	
保育所	(公立)	4	6
	(私立)	1	
	(公私不明)	1	
幼稚園	(公立)	2	3
	(私立)	1	
小学校(公立)			12
中学校(公立)			13
児童館(公立)			15
合計	(公立)		49
	(私立)		
	(公私不明)		

表2 該当事例数

	該当事件数	人数	該当人数/児童数(%)
保育所	8	10	2.8%
幼稚園	0	0	0.0%
小学校	7	7	0.2%
中学校	15	16	0.5%
児童館	19	32	3.2%
合計	49	65	0.8%

表3 調査票Ⅲ回答数

	男	女	合計
保育所	1	40	41
幼稚園	2	11	13
小学校	28	74	102
中学校	25	23	48
児童館	6	14	20
合計	62	162	224

表4 調査票Ⅲの回答者の属性

保育所	所長	副所長	主任保育士	常勤保育士	非常勤保育士	看護職	その他・不明	計
	5	0	5	26	3	0	2	41

幼稚園	園長	副園長	主任	常勤教諭	常勤助教諭	常勤講師	非常勤講師	非常勤助教諭	非常勤講師	養護教諭	その他	計
	2	1	1	8	0	0	0	0	0	0	1	13

小学校	校長	教頭	学年主任	学年担任	生徒指導担当教諭	養護教諭	スクールカウンセラー	その他・不明	計
	5	5	32	36	2	7	4	11	102

中学校	校長	教頭	学年主任	学年担任	生徒指導担当教諭	養護教諭	スクールカウンセラー	その他・不明	計
	4	5	10	11	2	12	1	3	48

児童館	児童館長	主任	児童厚生員(常勤)	児童厚生員(非常勤)	その他・不明	計
	9	1	7	0	3	20

表 5 調査票Ⅰへの回答数

水準	度数	割合
保育所	2	11.8%
幼稚園	2	11.8%
小学校	4	23.5%
中学校	2	11.8%
児童館	7	41.2%
合計	17	100.0%

欠測値 N 0

表 10 調査票Ⅱへの回答数

水準	度数	割合
保育所	6	20.0%
幼稚園	1	3.3%
小学校	3	10.0%
中学校	9	30.0%
児童館	11	36.7%
合計	30	100.0%

欠測値 N 0

表 6 調査票Ⅰの質問数について、どうお感じになりましたか

水準	度数	割合
多すぎる	6	35.3%
適当な数である	10	58.8%
少なすぎる	0	0.0%
わからない	1	5.9%
合計	17	100.0%

欠測値 N 0

表 11 調査票Ⅱの質問数について、どうお感じになりましたか

水準	度数	割合
多すぎる	3	12.0%
適当な数である	20	80.0%
少なすぎる	0	0.0%
わからない	2	8.0%
合計	25	100.0%

欠測値 N 5

表 7 調査票Ⅰの質問内容について、どうお感じになりましたか

	度数	割合
適切である	10	81.8
修正すべきである	2	18.2
削除すべきである	0	0.0
追加すべきである	0	0.0
わからない	0	0.0
合計	12	100.0

欠測値 N 5

表 12 調査票Ⅱの質問内容について、どうお感じになりましたか

	度数	割合
適切である	9	50.0
修正すべきである	8	44.4
削除すべきである	0	0.0
追加すべきである	0	0.0
わからない	1	5.6
合計	18	100.0

欠測値 N 12

表 8 その他、調査票Ⅰに関するご意見がありましたら、ご自由にご記入下さい。

水準	度数	割合
記入あり	4	23.5%
記入なし	13	76.5%
合計	17	100.0%

欠測値 N 0

表 13 その他、調査票Ⅱに関するご意見がありましたら、ご自由にご記入下さい。

水準	度数	割合
記入あり	9	30.0%
記入なし	21	70.0%
合計	30	100.0%

欠測値 N 0

表 9 調査票Ⅰの回答者の名前と連絡先の記入状況

水準	度数	割合
記入あり	12	70.6%
記入なし	5	29.4%
合計	17	100.0%

欠測値 N 0

表 14 調査票Ⅱの回答者の名前と連絡先の記入状況

水準	度数	割合
記入あり	7	23.3%
記入なし	23	76.7%
合計	30	100.0%

欠測値 N 0

表 15 調査票Ⅲへの回答数

水準	度数	割合
保育所	47	28.7%
幼稚園	15	9.1%
小学校	43	26.2%
中学校	34	20.7%
児童館	25	15.2%
合計	164	100.0%

欠測値 N 0

表 20 調査票Ⅳへの回答数

水準	度数	割合
保育所	35	30.2%
幼稚園	8	6.9%
小学校	47	40.5%
中学校	17	14.7%
児童館	9	7.8%
合計	116	100.0%

欠測値 N 0

表 16 調査票Ⅲの質問数について、どうお感じになりましたか

水準	度数	割合
多すぎる	58	37.2%
適当な数である	73	46.8%
少なすぎる	0	0.0%
わからない	25	16.0%
合計	156	100.0%

欠測値 N 8

表 21 調査票Ⅳの質問数について、どうお感じになりましたか

水準	度数	割合
多すぎる	43	40.2%
適当な数である	51	47.7%
少なすぎる	0	0.0%
わからない	13	12.2%
合計	107	100.0%

欠測値 N 9

表 17 調査票Ⅲの質問内容について、どうお感じになりましたか

	度数	割合
適切である	77	61.6%
修正すべきである	26	20.8%
削除すべきである	2	1.6%
追加すべきである	2	1.6%
わからない	18	14.4%
合計	125	100.0%

欠測値 N 39

表 22 調査票Ⅳの質問内容について、どうお感じになりましたか

	度数	割合
適切である	23	22.8%
修正すべきである	47	46.5%
削除すべきである	20	19.8%
追加すべきである	0	0.0%
わからない	11	10.9%
合計	101	100.0%

欠測値 N 15

表 18 その他、調査票Ⅲに関するご意見がありましたら、ご自由にご記入下さい。

水準	度数	割合
記入あり	37	22.6%
記入なし	127	77.4%
合計	164	100.0%

欠測値 N 0

表 23 その他、調査票Ⅳに関するご意見がありましたら、ご自由にご記入下さい。

水準	度数	割合
記入あり	24	20.7%
記入なし	92	79.3%
合計	116	100.0%

欠測値 N 0

表 19 調査票Ⅲの回答者の名前と連絡先の記入状況

水準	度数	割合
記入あり	29	17.7%
記入なし	135	82.3%
合計	164	100.0%

欠測値 N 0

表 24 調査票Ⅳにおける回答者の名前と連絡先の記入状況

水準	度数	割合
記入あり	25	21.6%
記入なし	91	78.4%
合計	116	100.0%

欠測値 N 0

【自由記述】

調査票Ⅰ

○ 表4における具体的意見

(修正すべきである)

- ・項目が多すぎるので、最も肝心なものだけ数項目に絞り込んだ方が答えやすい(小学校)
- ・児童数の記載方法が分かりづらかった。当館で一般利用者(乳幼児～高校生)と児童クラブの特定の利用があるため(児童館)

○ 調査票Ⅰに対する自由意見

- ・障害児の受入にあたって、育児放棄となるケースもあります。また、障害児の親が精神的疾患により、子どもを療育する事が困難になるなど厳しい実態も出てきました。こうした場合、通報し子どもを保護してもらったらよいかなど躊躇することもあります。(児童館)
- ・該当事例についてですが、虐待の疑いがあると判断する段階で大変迷いました。児童館にくる子どもたちの中には、確かに気になる子どもがいますが、家庭内のことを詳しく知ることはむずかしいので、親の様子が全く把握できないこともあります。虐待の疑いがあるとか、今後虐待に進んでいく疑いがあるとか、判定しにくいです。いきなり虐待の疑いの事例があるかないか選択する前の段階の調査表があるといいと思いました。フローチャートのような形式になっていて、答えていくと該当するかどうかわかるようになっていたりとか、または具体的な事例を書く欄があれば、答える側としてはやりやすいです。(児童館)
- ・地域で対応が必要と思われる児童に児童館が関わる場合もあり、調査の必要性を感じます。児童クラブ以外の自由来館児童の事例がありました。(児童館)
- ・健全育成事業以外でも地域で対応が必要な児童もあり、調査の必要性を感じます。児童クラブ以外の自由来館児童の事例がありました。(児童館)
- ・児童館では、放課後健全育成事業以外の利用者の虐待の事例に遭遇する事も多い。それについては問わないのか？(児童館)
- ・児童クラブ以外の自由来館児童の事例がありました。(児童館)

調査票Ⅱ

○ 表9における具体的意見

(修正すべきである)

- ・保育所・保育士と教職員は一緒に仕事はしないことが多く記入に困りました。(保育所)
- ・虐待と疑われるケースについて記入しましたが、通告、連絡というよりは相談といった段階のケースの場合だったので、設問で選ぶのに苦しいものがありました。アンケートの内容がもう少ししやらかだと答えやすかったように思います。(保育所)
- ・記入の仕方が分かりづらい。“学校”に限定しているところがあり、困った。(保育所)
- ・問5は問3での答えが「担任」というのを想定しているように感じる。「担任」という選択肢が無い。(小学校)
- ・どこまでカウントするのか？今回はかなりあやしいと思ったり、校内で対応のため動いたものについて、カウントした。

問5 「まず」と言われると「担任」のみか？と思うが、その後の流れの中では「初期段階の戸惑っている時期を指す」かと考え、○印は増えた。「まず」で、何を聞きたいと思っている質問でしょうか？とっさにという感じが、初期段階でという感じが…？

問8 ネットワークミーティングを入れてもいいと思う。

問9-1-2 保健所と市町村保健センターの区別がつかない。(中学校)

・児童相談所や福祉事務所等を入れた方がわかりやすいのではと思う。(児童館)

・問8で「担当児童厚生員」となっていますが、担当が決まっていない場合もありますので「児童厚生員」もあつたらいいと思います。(児童館)

・問7、問8など学校関係の位置づけとなっていない児童館には、答えにくい設問になっている。(児童館)

○ 調査票Ⅱに対する自由意見

- ・虐待事例を扱ったことがないのでわからないことが多いのですが、今後研修等で勉強していきたいと思います。(幼稚園)
- ・通告はしていませんが、その後も経過観察は慎重にしています。(中学校)
- ・児童会館では、虐待の初期対応に加えて、学校や保健センター等からの協力要請があり、児童及び保護者の経過観察を依頼され、直接児童とかかわる中での情報提供を求められています。

虐待が疑われる親の姉妹や親からの相談が

あり、「この状況は虐待でしょうか」と判断を問われることもありました。(児童館)

・親は育児放棄している状態でも親以外に手助けする親族がいる(金銭だけの場合もある)。夕食だけは与えるが、朝食・昼食は準備しない。親のトラブルで子どもが恐怖心・嫌悪感を抱いているのが毎日ではない、等の場合もあるので、選択肢の後に備考欄をつける事が可能ならば、子どもの様子や程度など書き入れることができると思います。(児童館)

・事例の数分をコピーして用意するのは、作業が多くて、大変である。一通で複数の事例に対して答えられるような工夫ができないだろうか。(児童館)

・本市児童会館の組織・体制・実態とかけ離れた設問が多く、回答に苦慮した。実態に即した設問が必要である。(児童館)

・児童館に来る児童の中には虐待かどうか判断するに難しい子どもの様子がよく見られる(言動等気になるが、日によって差があったり、来なかったりと)それでも児童館に遊びに来るうちは良いが、ぱたりと来なくなってしまうと心配になる。虐待と位置付けるには難しいが、それに発展してしまう前段階の子どもが児童館には多いように思える。来なくなってしまうからが様子がわからず悪い方向にいったのではないかと考えることもしばしばある。そういった現状が多い児童館で白黒つけるような判断方法は難しかった。具体的なことを書く欄が欲しかったです。その上出該当する項目を選べれば良かったです。(児童館)

・当会館のケースは、虐待をしている母親本人が、児童相談所に相談に出向き、就労はしていないが特別に保育園に入所していた経緯があり、それを受けて児童会館でも留守家庭児童として入会したため、このアンケートにそぐわない部分があった。(児童館)

調査票Ⅲ

○ 表 14 における具体的意見

(修正すべきである)

- ・聞き方がむずかしくてわからない。(保育園)
- ・分かりづらい。(保育園)
- ・内容が難しいと言うか、専門的すぎる所がある。(保育園)
- ・答えに困る部分がある(問 14) (小学校)
- ・書き方が悪いのか、質問内容の意味がわからない所があった。(保育園)

・質問内容が難しい。(幼稚園)

・どう答えていいか判断に迷うところがある。(小学校)

・シンプルな内容が良い。(小学校)

・重複する項目があった。(小学校)

・項目数が多い。(小学校)

・問 14 「どう思うか」という問で「最も重要なことを」というものでありながら、解答(選択する)内容が適切ではない。(小学校)

・問 14・1 は筆記形式が必要(小学校)

・問 14 が答えづらい。回答が 1-3 までであるが、1 はすぐに入れられたが、2 と 3 は強いて言えば程度、無記入でよいのなら 2 と 3 には記入しなかった。(中学校)

・問 13 は学校では直接関係しない。(小学校)

・問 1 設問に二つの要素が含まれ、どちらに重きを置いて回答するのか不明確。

行政の単位により 2 度回答する形であるが、教育委員会、他の行政の単位(福祉等)程度の把握ではだめなのか?(中学校)

・場面設定が少なすぎる。(中学校)

・質問内容を簡潔にして欲しい。(中学校)

・14、「重要」がおかしい、例えば「あたっている」。(中学校)

・問 16・10【学校など】とした方がよい。(学校ではない機関も答えられるように)児童館が教育行政の中に位置付けられていないので、答えにくい。(児童館)

・重複している項目有り。(児童館)

・問 4、問 5、問 8 に見られる「通告」は「通告・相談」にすることができたら良いと思います。

問 14、問 17 の選択肢 8 の「学校」は児童館など他の施設名も並列して載せたほうが良いと思います。

問 1 や問 14 など番号を 3 つ記入するという問いは 3 つない場合それ以下でも良ければ明記したほうが良いと思います。(児童館)

・ネットワークという定義があいまい。(小学校)

・虐待に対し、今後どのようにしていくのが適切なのかという質問が沢山あったのでよいと思います。(幼稚園)

・何のためにこのアンケートが必要なのでしょうか? 目的がわかりません。(小学校)

・何について明らかにするのかを絞って内容を決めるとよい。(小学校)

・途中でアンケートをやめたくなる。(威圧的)(中学校)

(削除すべきである)

- ・回答者の属性について、F4,F5,F6 は無意味である。特に〇ヶ月など。(中学校)
- ・虐待に関する法の承知度(児童館)(追加すべきである)
- ・児童虐待防止ネットワークについて説明が欲しい。(小学校)
- ・児童館がどの関係機関を第 1 位に連携先としているか。(児童館)
- ・保健所(保健師)・児童相談所・民生委員・主任児童委員等。(児童館)

○ 調査票Ⅲに対する自由意見

- ・調査結果等知らせてほしい。(保育園)
- ・調査結果はどのように発表されますか？(答えたものについて、結果を知りたいです)(小学校)
- ・こういうものは、大切だと思いますが、アンケートを必ず現場に反映させていただきたいです。学校では、知識も乏しく、判断が難しいケースが多々あると思うので。どう生かすかがカギだと思います。(小学校)
- ・何のために調査するのかを回答者に明示してください。(小学校)
- ・具体的にどのような調査をしているのか書いたほうがいい。(小学校)
- ・何に活用するのか？(小学校)
- ・どんな所が何の目的でこの調査を依頼してきたのか説明不足のため、回答が煩わしい。(小学校)
- ・このような調査の結果報告、活用方法の提示など、ほとんど行なわれたことがない。行政側の実績作りとしか感じられず、協力する意欲がわからない。(中学校)
- ・年齢、経験年数など、何の為のアンケートですか？(小学校)
- ・自分の勉強不足を感じさせられました。知らない事が多すぎるので…！！(保育園)
- ・虐待事例を扱ったことがないので分からないことが多いのですが、今後研修等で勉強していきたいと思います。(幼稚園)
- ・大切なことだと思います。(小学校)
- ・大切だけど気分がブルーになる。今まで隠されてきた分野。だからこそ、とても大事だと思います。(小学校)
- ・身近な問題としてもっと意識し、学習しなければいけないと感じた。
- ・自分自身、虐待問題についてはあまり関心

が無く、今まで関係機関等についてもよく知りませんでした。これからは、もう少し研修をしていきたいと思います。(小学校)

・自分の考えを振り返る良い機会になりました。(小学校)

・児童虐待の状況について直接、自分に関わってこなかったのも、あまり意識していませんでした。世の中で騒がれている事実を耳にする程度でした。本校でも、児童相談所を介した児童がいましたが、施設の機能までは理解していませんでした。本調査で法的な言葉を目にし、少しですが知ることができました。今後の課題ととらえています。(小学校)

・子どもを守るため、学校、家庭、地域、行政が一体となったサポートが必要である改めて感じた。調査後の迅速な対応を期待します。(小学校)

・今まで校内で事例があっても、自分が関わっていないとあまり理解していないことをアンケートをしながら思いました。みんなで研修する機会が必要かと思います。

・アンケートに答えることで、児童虐待について、もっと理解したり意識したりすることが必要だと改めて感じた。(小学校)

・虐待防止法の詳細を知らず、特に研修もせずにきましたが、最近ニュースで耳にすることが増えてきていますので、そういうことが起こる前に校内研修や関係機関での研修をすべきだと思いました。(中学校)

・虐待に対し、今後どのようにしていくのが適切なのかという質問が沢山あったので良いと思います。(幼稚園)

・あまり調査することに意味を感じない。(小学校)

・アンケート協力者が、非協力的になる内容が多く、アンケートとしては一番まずいタイプ。(中学校)

・小規模校のため。回答者の属性から回答者が明らかになる可能性が充分ある。(小学校)

・教員経験年数等は年度末の段階で算定しないと、誤りが多発します。いつの時点か書き添えて下さい。1月現在となっていましたので。要領と調査内容の期間が一致せずわかりにくいと思いました。(小学校)

・学校の対応について…という設問に対して、回答が 2・3・6 というのは判断しにくい。(児童館)

・今回の虐待のケースは、児童を学校に通わ

せないことがあるため、中学校が家庭との調整に苦慮している状況。保護者への対応について、今後は指導を強化する必要があるが、そこをどこが主体的に担うのか不明瞭の状態である。

本市の児童会館の組織・体制・各種名称・実態と合わない設問も多く、回答に苦慮した。(児童館)

- ・現職の経験が浅く、虐待の事例が無いため、適切なアンケート回答ができませんでした。虐待されている児童が児童館に来るか、又相談を受けるかは相当の信頼関係が必要であり、一人の児童に深く関わるのは無理がある。(児童館)

- ・虐待の疑いのあった児童は、昨年度まで、塾の先生から心配してもらい前担任が様子を見ていた。体にアザなどのあとが明かにあれば追求しやすいが、洋服の着用等で隠れていることも多く、発見は難しかったようだ。今年度の面談で母親と話し合ったが、離婚した父親については認めたが、自分については認めない。子どもの話と食い違っていた。今年度はアザ等は見られていない。(小学校)

- ・学校は家庭と直接向き合う場である。個々の状況が虐待かどうかと考えるより、改善したい、そのためには…と考えてしまう。保護者への指導できる機関として児相が存在すると良いと思う。(小学校)

- ・虐待は早急に解決しなければならない問題だと思いますが、自分の子供を趣味で茶髪にするような保護者の存在は、虐待とまではいえないが、大きな問題だと考える。(中学校)

- ・特にありません。(保育園)

- ・なし。(保育園)

- ・ありません。(保育園)

調査票Ⅳ

○ 表 19 における具体的意見

(修正すべきである)

- ・同じ問があった。(保育園)

- ・同じ質問が二つあったように思うが…

- ・同じ質問がいくつかあった。(21 と 23、20 と 22)(保育園)

- ・同じ質問があったので。(保育園)

- ・同じ質問があった…。(保育園)

- ・同じ質問が 2 個あった様に思うが…(保育園)

- ・同じような質問が多い。(保育園)

- ・21 と 23 の質問が同じである。(保育園)

- ・20、21 と 22、23 が重複しています。(保育園)

- ・同じ質問が数個あるのは変である。内容が気持ち悪い。わかりづらい所がある。(幼稚園)

- ・同じ質問がある。(幼稚園)

- ・同じ質問がある(20 と 22、21 と 23)。(幼稚園)

- ・20 と 22、21 と 23 同じ設問になっているが、一つずつにするべきである。(幼稚園)

- ・20 と 22、21 と 23 は内容が同じなので一つにするべきである。(幼稚園)

- ・同じ質問がある(小学校)

- ・同じ質問があった。(小学校)

- ・同じ項目があった(20 と 22、21 と 23)。(小学校)

- ・同じような設問が多い。(小学校)

- ・重複している内容がある。(小学校)

- ・重複している。(小学校)

- ・同じものが複数ある。(小学校)

- ・21 と 23、20 と 22 は同じ質問。(小学校)

- ・20 と 22 と全く同じ問いがあるので、もう少し文章を変えるか、設問の順番を変えるべき。(小学校)

- ・20(22)と 23(21):同一内容のものが有り、どちらか修正すべきです。(小学校)

- ・あいまいな設問がある。同一の質問事項が2つある。(中学校)

- ・21-23、20-22 が同じ質問なのは理由があるのででしょうか？(中学校)

- ・21-23、20-22 の問題が繰り返されている。(中学校)

- ・同じ項目がある。20-22、21-23。(児童館)

- ・21-23 は同じ。(児童館)

- ・設問内容をもう少し分類して提案するとよい。ダブっている項目がある。(小学校)

- ・この質問の中での「子ども」とは、何歳位を対象をしているのか…それによって解答が違ってきます。(保育所)

- ・1、2、3、4、5、6 だけでは答えられないものもある。その家庭により親と子の関係や家庭内のルールは違うので、すべてが虐待とは言えない気もする。(保育所)

- ・どこからどこまでが虐待なのかという人の意見が聞いていると思うから。(幼稚園)

- ・ネグレクトは虐待ですという認識が無い人もいる。(小学校)

- ・質問の内容がどういう意図かわからない。(小学校)
 - ・質問によって答えられないものが多いと思います。状況によっては、子育て中やってしまったこともあると思いながら書きましたので。(小学校)
 - ・個人の見識に及ぶ内容で、具体性に欠ける質問もあり回答しづらい。(小学校)
 - ・虐待にもネグレクトや暴力など幅広いものがある故、もう少し分類してまとめた設問にした方が良い。(小学校)
 - ・虐待について改めて意識することが大切だと思う。(小学校)
 - ・ありえない内容。読んでいて気分の悪くなる内容のものが多く感じます。(小学校)
 - ・選択肢「虐待または放任」は「虐待」と「放任」にわけると良い。(中学校)
 - ・子どもの年齢とか、長時間とか、定義や幅がはっきりしないものがあり、答えにくい場合がある。(中学校)
 - ・何の調査かわからない。(中学校)
 - ・アンケートが不適切である。(中学校)
 - ・虐待の定義というものが無いので、こういった意識—どこを虐待とするかその人がどう判断しているのか調査することはとても重要な項目だと思います。その上で事例を扱っている状況を受け止めてもらえればと思います。(児童館)
 - ・虐待というより、人のモラルに関するものが多い。その時の状況、どういう状況でそうなのかによって対処というのは変わってくる。(児童館)
- (削除すべきである)
- ・同じ質問はいらない。(保育所)
 - ・2度同じ質問を書いている。(保育所)
 - ・同じ質問があった。(小学校)
 - ・同じ質問が繰り返されていた。(小学校)
 - ・同じ質問があった(意図的かわかりませんが)。(小学校)
 - ・同じ質問が2つある。(小学校)
 - ・同じことが2問出ているのは校正ミスか、観点があいまいなのか。(小学校)
 - ・21、23が同じ質問。(小学校)
 - ・質問が重複している。(小学校)
 - ・くり返し同種の質問が多い。(小学校)
 - ・22、23が同じなので。(小学校)
 - ・22、23が同じ。(小学校)
 - ・21と23は同じ内容である。どちらか削除す

- べき。(小学校)
- ・21と23の設問は同じなのでどちらかは不要。(小学校)
- ・21、23が同じ質問。(中学校)
- ・同じ問いが繰り返されている。(中学校)
- ・20と22、21と23は同一の問いである。(児童館)
- ・20と22、21と23は同一の設問である。(児童館)
- ・20と22、21と23は重複しているのでどちらかは削除。(児童館)
- ・20と22、21と23は重複している。(児童館)
- ・明かに虐待だと思われるものは、項目に入なくてもよい。(小学校)
- ・罰として子どもに長時間正座させる。(小学校)
- ・このアンケートの意図するものがわからない。(小学校)
- ・アンケートに答えていて気持ち悪くなった。(小学校)
- ・答えられない。
- ・1/4に減らすように、内容を工夫していただきたい。(小学校)

○ 調査票Ⅳに対する自由意見

- ・文章だけでは「しつけ」との区別がむずかしいと思いました。(保育所)
- ・しつけの範囲かどうか判断に困るものがあったが、くりかえされる場合と数階の範囲とで受け取りが違ふと感じた。保育園の質問(28番)もそうしたい気持ちになる場合もあるし…。また、36番のような場合、子どもから依頼されたとか、子どもの年齢とかも関係するかもしれない。日ごろの親子関係によって、不適切か虐待かわ変わってくる。(中学校)
- ・通告した人の守秘義務があるのに、TVやニュースで、どこで発見され、その職員によって通報されたなどということが言われるのはなぜか？(保育所)
- ・はじめての問いが多くてとまどいました。(保育所)
- ・なし。(保育所)
- ・同じ質問があるのでは？(小学校)
- ・同じ設問がありました。(中学校)
- ・21と23は同じ問題。(中学校)
- ・同じ項目がある(21と23)。性的虐待についての項目が多いが、そんなにたくさんの事例があるのか？(小学校)

- ・1-6 では答えきれないものもある。表現の違いかも。(小学校)
- ・調査結果はどのように発表されますか？
(自分で答えたものについて、結果を知りたいです)(小学校)
- ・集計結果と考察を伝えて欲しい。(小学校)
- ・何の目的で調べるのかな？(小学校)
- ・この調査結果から、何かを得て、よいものができるのでしょうか。(小学校)
- ・調査には必要なだろうが、読みにくい内容も多くまいりました。(小学校)
- ・特に同一地区での情報は、貴重な、指導のための資料となりうる。(小学校)
- ・虐待とはそのようなものなのかと感じました。(小学校)
- ・個人の意識にはそれぞれ大きな差があると思いました。子どもとの接し方に気を付けていきたいと思います。(小学校)
- ・状況設定の解釈が難しい(いろいろ考えられるので)。(小学校)
- ・自分なりの解釈のしかたについても勉強不足のため判断に困るところが多々ありました。申し訳ありません。(児童館)
- ・小規模校で職種を回答すると個人が特定される。(小学校)
- ・意識調査では内容の検討がされずに項目がある。このアンケートをとることで、どういうことにかかれるのか伝わらない。(小学校)
- ・モラルに関することが多い。普通に考えるとどう考えても良くないことがほとんどである。相手がなんらかの苦痛を感じるのが虐待の定義であると考えたらあまり意味のない調査かもしれない。(小学校)
- ・このような調査はお断りしたい。(小学校)
(ふつうの感覚の人に対するアンケートとしてふさわしくない。)(小学校)
- ・36について、子どもの状況によっては必要な場合もあると考える。そのため「わからない」を選んだが、少しニュアンスが違うと思われる。「虐待かどうか判断できない」というのが「わからない」だとすると、「その他」も選べたら良いか。(児童館)
- ・虐待の捉え方が異なるため、自覚できない親がほとんど。親の生育歴であったり、親の精神的不安定(経済的なことや病気のことで悩みを持つなど)があったりで虐待の基準が変わってくると思いますので、その基準をどう策定していくか、又子どもの権利条約の視点も取り入れ、

早急に親や関係者に周知していくことが重要だと思います。(児童館)

平成 17 年 2 月 18 日

調査協力施設各位

日本子ども家庭総合研究所

ソーシャルワーク研究担当部長 才村 純

調査のご協力をお願い

厳寒の候、貴殿におかれましては益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

さて、この度はご多用にもかかわりませず、平成 16 年度厚生労働科学研究「保育所、学校等関係機関における虐待対応のあり方に関する調査研究」の予備調査にご協力いただき、誠にありがとうございます。本調査研究は、今大きな社会問題となっている児童虐待に、学校や幼稚園、保育所、児童館などが適切に対応できるためのガイドラインを作成することを目的としていますが、これに先立って、これら施設における虐待対応の実態や関係者の意識を把握するものでございます。本予備調査は、平成 17 年度に予定している全国調査（本格調査）に備えるべく、一部の施設の方々のご協力をお願いし、調査方法や調査内容等についてご意見を頂戴するために行うものでございます。

調査に当っては、ご回答いただいた方々が同一の施設に所属されているかどうかの識別を行うとともに、地域特性の比較分析を行うため、施設番号により施設が特定できるようにしておりますが、調査結果は統計的に処理し、個々の施設名を公表することはありません。

なお、当研究所は、国立の児童問題研究所に代わる研究機関として厚生労働省のご支援のもとに児童問題に関する幅広い政策的な研究を行っております。

年度末のお忙しい中、誠に恐縮でございますが、本調査研究の趣旨をご理解いただき、ご協力を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

予備調査の要領

1. 予備調査の目的

平成 17 年度には、全国の小学校、中学校、幼稚園、保育所、児童館(学童保育実施)からそれぞれ 5%を無作為抽出し、文部科学省との連携のもとに調査を行う予定ですが、平成 16 年度に行う予備調査は、これに備えるため、いくつかの施設のご協力のもと、実際に調査票にご記入いただき、調査内容や調査方法等についてご意見を頂戴するものです。

2. 調査票の種類及びお答えいただく対象

- ① 調査票は、小学校、中学校、幼稚園、保育所、児童館のいずれについても、それぞれ調査票Ⅰ「施設の属性および虐待事例への遭遇の有無」、調査票Ⅱ「事例調査」、調査票Ⅲ「意識調査」、調査票Ⅳ「ピネット調査」の 4 種類です。
- ② 調査票Ⅰ「施設の属性および虐待事例への遭遇の有無」は施設内のどなたかお一人にご記入いただくものです。
- ③ 調査票Ⅱ「事例調査」は、調査票Ⅰで遭遇事例があるとお答えいただいた場合のみ、施設内のどなたかお一人にご記入いただくものです。遭遇事例がない場合はお答えいただくなくても結構です。
- ④ 調査票Ⅲ「意識調査」は、下記の方全員にお答えいただくものですが、困難な場合は可能な範囲で結構です。
 - ・中学校:校長、教頭、各学年主任(各 1 名計 3 名)、各学年担任(各 1 名計 3 名)、生徒指導担当教諭、養護教諭、スクールカウンセラー
 - ・小学校:校長、教頭、各学年主任、各学年担任、生徒指導担当教諭、養護教諭、スクールカウンセラー
 - ・幼稚園:園長、教頭(副園長)、主任、教諭(年長、年少各 1 名計 2 名)、養護教諭
 - ・保育所:所長、所長代理、主任保育士、保育士(0 歳児、1 歳児、2 歳児、3 歳児、4 歳児、5 歳児、6 歳児各 1 名)、看護師又は保健師
 - ・児童館:館長、主任、児童厚生員(1 名)

3. 調査の期間

平成 17 年 1 月末現在の状況についてお答えいただき、3 月上旬を目途にご返送ください。

4. 調査票の返送

お答えいただいた調査票は、同封の封筒にお 1 人ずつ封印の上、各施設で一括してご返送ください。

年度末のお忙しい中、誠に恐縮ですが、何卒よろしくお願い申し上げます。

調査票I

保育所

学校コード

施設の属性および虐待事例への遭遇の有無

※全ての施設においてお答えください。

A. 回答者の属性

1. 保育所長 2. 所長代理 3. 主任保育士 4. 保育士（常勤）

5. 保育士（非常勤） 6. 看護職 7. その他（ ）

※回答いただいた方の主たる職種を1つ○で囲んでください。

B. 保育所の属性

①. 貴保育所について該当する項目の番号を○で囲んでください。

1. 公立公営 2. 公立民営 3. 民立民営

②. 児童数

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	計
男	人	人	人	人	人	人	人
女	人	人	人	人	人	人	人
計	人	人	人	人	人	人	人

③. 職員数

	所長	所長代理	主任保育士	保育士	看護職	計
常勤	人	人	人	人	人	人
非常勤	人	人	人	人	人	人
計	人	人	人	人	人	人